



◇委員の紹介◇

**PwC あらた有限責任監査法人
パートナー**

吉岡 亨

2022年8月1日に企業会計基準委員会（ASBJ）の非常勤委員に就任しました吉岡です。今回の委員就任前まで、リース会計専門委員会専門委員（2012年～2022年）、ディスクロージャー専門委員会専門委員（2017年～2022年）としてASBJの活動に関わってきました。所属する監査法人では、金融機関や事業会社の監査やアドバイザリー業務に携わり、現在は、主に品質管理部門において日本基準とIFRSを中心とした財務報告関連の相談業務に従事しています。また、日本公認会計士協会の活動として、2019年8月から2022年7月まで同協会の会計制度委員会委員長も務めました。

ASBJとの関わりとしては、上記のほか、2009年8月から3年間、ASBJに出向していました。研究員として、国際関連業務や、連結、リースなどのプロジェクトに関与しました。出向は約10年も前になりますが、当時も会計基準を巡って国内外の状況が激しく動いていた時期でしたので、さまざまな出来事が印象に残っています。国外では国際会計基準審議会（IASB）と米国財務会計基準審議会（FASB）のコンバージェンス作業が一進一退を繰り返しており、国内ではIFRSの任意適用が開始され、また、ASBJではIASBとの東京合意を受けた日本基準変更の仕上げが進められていました。一方、IFRSの強制適用やコンバージェンスの観点からの日本基準変更への慎重な意見も生じていた時期でもありました。こうした変化をASBJの中から見ることができ、変化に関われたことはとても有意義でした。東京合意における基準差異の解消期限であった2011年6月に、IASBとの協議を経て、「概ね目標達成」との文章を公表できたことも印象深く記憶に残っています。当時から今日まで、ASBJの活動への関与を通じて、会計基準開発に関わる国内外のさまざまな方と会い、多様な視点を学ぶことができたことは、私の大きな財産です。

この10年、日本の資本市場ではIFRSの任意適用が進展しました。一方で、日本基準も多くの関係者に使われ続けています。制度的な要因だけでなく、多くの方々の尽力により、国際的な整合性確保の取組みが進められ、また、日本の市場関係者のニーズに沿った内容となるよう丁寧に開発されてきたことも使われ続けている理由の一つであるように思います。会計基準はそれを使う関係者の関心に適合したものである必要があります。開発にあたっては、関係者間のニーズ、理論と実務、国際と国内、コストとベネフィットなどのバランスの考慮が不可欠と考えています。皆さまの意見を聞き、深く考え、長く使われ続ける基

委員長及び委員の紹介

準、日本の資本市場の発展に寄与する質の高い基準を目指し、ASBJの委員として努めてまいります。